

認証取得による輸出拡大に向けた 各地の取り組み事例集



株式会社マイファーム

本事例集で紹介する事例



- 01.株式会社和田萬(大阪府)
- 02.玉乃光酒造株式会社(京都府)
- 03.有限会社かごしま有機生産組合(鹿児島県)
- 04.桜井食品株式会社(岐阜県)
- 05.おたに家株式会社(宮崎県)
- 06.合同会社FarmM(岐阜県)
- 07.有限会社せい(群馬県)
- 08.オーガニックパパ株式会社(福岡県)
- 09.株式会社MOMIKI(宮崎県)
- 10.株式会社おおすみテクノ(鹿児島県)
- 11.株式会社オキス(鹿児島県)
- 12.株式会社三和コーポレーション(大阪府)
- 13.株式会社のこたべ(北海道)



- 14.株式会社ドロップ(茨城県)
- 15.株式会社すずめファーム(京都府)
- 16.株式会社石橋果樹園(佐賀県)



GLOBALG.A.P.

- 17.京葱SAMURAI株式会社(京都府)
- 18.株式会社成田ケンコウファーム(千葉県)



01. 事業者名 株式会社和田萬 所在地 大阪府大阪市

事業者の概要

代表者：和田武大
主な品目：有機玄米ミルク粉、ごま
主な輸出先：アメリカ、香港
認証取得状況：有機JAS(取得2002年)

事業概要

創業1883年のごまメーカーです。おいしく焙煎できる技術と、有機製品を多様に製造できるのを強みに10か国以上に輸出しています。

認証取得や輸出取り組んだ背景

子ども向けの有機製品が少ない事、特にミルクの代わりはなかなかないことから、可能性があると考えました。ヨーロッパなど海外であれば、アレルギーフリー、健康、有機、サステイナブルといった言葉は親和性があるため、販売可能性があると思われました。

成果(実績)

有機黒ゴマペーストは、現地に行き展示会出展、レストランや小売店への同行営業を行い、着実に売り上げが伸びています。有機玄米ミルク粉についても輸入業者が非常に興味を示してくれています。

取組のポイント

【認証取得】

はじめての原材料、はじめての加工業者と取り組んだため勝手がわからず時間がかかりました。

【輸出】

弊社にとって新ジャンルの商品なので、海外でのアピール方法は手探り状態です。ただ、可能性は大いにあります。



(フランスのSIAL2022に出展した弊社のブース)

事業者の概要

代表者：丸山 恒生
主な品目：清酒・焼酎・リキュール
主な輸出先：米国・香港・カナダ
認証取得状況：有機JAS認証 2022年

事業概要

1673年に創業し今年で350周年を迎える玉乃光は1964年に玉乃光は業界に先駆け「無添加清酒」(今日の純米酒)を開発。蔵の特徴は自社で正確に精米した酒米を使用し、製造する清酒は純米大吟醸と純米吟醸酒のみです。

認証取得や輸出取り組んだ背景

「安心安全・地球にやさしい・サステナブル」・「オーガニックの日本酒ナンバー1」をモットーと目標を掲げ、有機認証の日本酒を成長著しい新たな切り口として健康志向の高い海外の消費者の方に飲んでいただきたいと思い取得に至る。

成果(実績)

2022年10月取得以降、ドイツ・米国・フランス・香港向けに有機JAS認証の純米吟醸酒2種類を出荷

→初年度約200万円の実績見込

取組のポイント

【認証取得】

酒造好適米での有機米にこだわっており、農家さんとの取り組みを重視し、作付計画を何度も練り直していただき米を確保

【輸出】

欧州向けはCOI(検査証明書)の提出及び、流通業者も限定(現地代理店も有機認証取得していることが必須)されることで、代理店を探すのが非常に困難で、何度もZoomMTGを実施



事業者の概要

代表者：大和田 明江

主な品目：人参、玉ねぎ、じゃが芋

主な輸出先：香港、台湾、マレーシア

認証取得状況：有機JAS認証

事業概要

当社は有機農業の生産、普及を目指して1984年に創業し、日本全国の生協や消費者団体に、安全でおいしい有機農産物を提供しています。また直営店「地球畑」では直接、消費者へ販売しております。

認証取得や輸出取り組んだ背景

鹿児島県と地理的に近い、東アジア地域やASEAN地域等の新興国では、高い経済成長を背景に、購買力の向上や市場の拡大が進んでいる。1000年続く農業を、地域社会に貢献することをビジョンとしている当社が今後、海外へ対してどのような形で貢献できるか、現地調査や海外の人と積極的に交流を図り、国際展開戦略を実施する。

当社の持つ強み（有機野菜の生産量、取扱い品目）や日本という優位性を最大限に活かし、海外市場の開拓に挑戦し、有機農業が人の健康や環境保全の理念がグローバル経済をよりよい方向へ導き、世界全体が安全で健康に暮らせる社会基盤づくりに向かうように貢献していきたい。

成果(実績)

- 有機JAS認証取組面積：
241ha(2021年)→ 243ha(2022年)
- 輸出金額：
790万円(2021年)→ 970万円(2022年)



取組のポイント

■ 有機農産物・加工品への輸出に向けた取組

Web商談会や既存バイヤーへ新しい商品の提案も行い、まだまだ有機農産物・加工品に対する強い引き合いを感じた。多くのバイヤーとのつながりに恵まれた結果、

【有機農産物】

香港向け有機農産物の輸出を継続（令和元年9月から）

現在では47品目を輸出

【加工品】

香港に「オーガニックおかき」、「有機人参で作ったジュース」定期的な輸出に成功、

日本より海外の方が有機農産物、オーガニックの認知度は高いと感じた。



事業者の概要

代表者：桜井芳明

主な品目：乾麺即席めんの製造・販売、
輸入オーガニック商品の販売

主な輸出先：米国、ドイツ、オランダ

認証取得状況：有機JAS認証(2003年8月)

事業概要

有機を始め、無添加・無着色にこだわった体に良い商品を製造し、販売しています。ベジタリアン向けの商品を多く販売するなど、お客様の健康を第一に考えた商品にこだわっています。

成果(実績)

2020.02 ジェトロ食品輸出商談会 at SMTS 幕張メッセ

2021.02 米国防サゼルズJapanese Food Virtual Expo 2021

2021.11 ジェトロ 米国オンライン商談会

2023.01 米国ラスベガス Winter Fancy Food Show

2023.02 ドイツ BIOFACH

2023.03 米国防サゼルズNPEW

輸出品目：オーガニックラーメン

輸出先：米国、ドイツ、オランダ、オーストラリア

取組のポイント

【輸出】

苦勞している点

有機JAS基準より厳しい要求への対応



事業者の概要

代表者：今村康薦
主な品目：はと麦、もち麦、他
主な輸出先：新規開拓中
認証取得状況：有機農産物(2017年)
有機加工食品(2023年)

事業概要

当社は、平成20年に農業の六次産業化を目指して、飲食店「そば処おたに家」を開業し、農業生産及び農産加工品製造の事業を開始した。

認証取得や輸出取り組んだ背景

有機加工食品・・・自社生産した有機農産物を自社で加工まで行っていたが、輸出を見込み、さらなる品質の向上と、信頼・ブランド力をつけるために認証に向けて取り組んだ。

成果(実績) (商談参加実績)

令和4年2月 SMTS2022 出展
令和4年9月 ダイエット&ビューティーショー 出展
令和4年11月 FOOD STYLE Kyushu 出展
令和5年1月 FOOD STYLE Kansai 出展
令和5年2月 SMTS2023 出展

**有機加工食品の認証取り組みにあたって
取り組み以前より
商談の引き合いが増加した。**

取組のポイント

【認証取得】

有機加工食品・・・加工施設の様々な事項への対策をソフト・ハード両面から作り上げるのを最初は苦勞した。

【商談】

有機農産物の認証を得ていたが、加工の認証を取得していなかった為、農産品の生産から加工までを自社で行う自社の強みをブースづくりでも完全に出せていなかった。これからの商談会では自社の強みを前面に押し出すことが可能となった。



06.事業者名 合同会社 farmM 所在地 岐阜県各務原市

事業者の概要

代表者：水野 吟二郎

主な品目：有機むくな豆パウダー

主な輸出先：香港・台湾・オーストラリア

証取得状況：有機農産物/有機加工食品
(令和4年12月取得)

事業概要

弊社の基本方針である「安心・安全・健康的な作物・食品」に関わっていくために、近年飛躍的な伸びを見せている海外販売への展開を新規・重点事業と位置づけ、積極的に有機農業の普及拡大、持続可能な取り組みを最重点事業と位置づけ、豊かな地球環境を未来の子供たちへ引き継ぎたい。

認証取得や輸出取り組んだ背景

有機農業は、農業の自然循環機能を大きく増進し農業生産に由来する環境への負荷を低減させ、さらに、生物多様性保全や地球温暖化防止等に高い効果を示すなどSDGsの達成に貢献する事は、とても素晴らしいと考えており、「みどりの食料システム戦略」に基づき、有機農業の参入・有機JAS認証取得を決意した。

成果(実績)

- ・ ALL is GOOD Co., Ltd. 様
現在商談整い、輸出向け商品開発（進行中）



有機むくな豆商品開発商談(All is Good様)

取組のポイント

【認証取得】

今回の認証取得支援事業において、弊社は2規格（有機農産物・有機加工食品）の支援を頂き、無事認証取得することができました。認証取得に際して、わからない事ばかりでしたが、取得申請準備・スケジュール管理等、コンサルの方々に協力・指導・並走して頂き、自社内部規定・格付規定等の策定も支援協力頂き、期間内に認証取得することができました。継続（年次更新）審査書類・帳票類管理についても指導を頂いている。

【商談】

健康食品関連の取り扱い実績のある商社と輸出に向けた、商品開発を進めている。最終商品化に向け、試作を準備し、商談を進めている。海外向け製品の提案の課題・ポイントとして、包装資材・表示について受け入れ国のルール・基準を確認する必要がある。



(香港展示会出展用サンプル)



(有機むくな豆(作付準備:耕運作業))



(有機むくな豆栽培状況)



(有機むくな豆(上:豆・下:鞆付き))

事業者の概要

代表者：清水 正行

主な品目：有機乾燥みそ（ふりふる）

主な輸出先：アメリカ・ヨーロッパ諸国

認証取得状況：有機農産物・有機加工食品
(令和5年11月取得)

事業概要

創業時は、大豆の販売額が思ったように伸びず、付加価値を考慮し、生みそ作りを開始した。生みその評価は高く、当初は順調であったものの、国内における生みそ需要が減少傾向となり、海外・インバウンドの商品開発に取組み、試行錯誤を重ね、「乾燥みそ」の製造技術を確立した。

認証取得や輸出取り組んだ背景

当初、自然農法による栽培の製品を海外にプレゼンしていたが、商品の良さを認めて貰えるものの、実契約に至ることが少ない。(展示会等で商品の高い評価を受けるものの、実契約となると海外では「有機JAS認証」取得が前提条件となる。) 海外の提案先からは、「有機JAS認証」を受けた製品が出来たら話して欲しい、と言われることも多く、弊社としても、有機JAS認証が必要だと判断した。

成果(実績)

農林水産省及び日本貿易振興会(JETORO)の輸出促進事業の一環として、輸出有望商品の発掘・テスト販売事業におけるフランス審査会にて、各国バイヤーやインポーター等の目利きのプロが、「売れると期待するテスト販売用商品」を発掘し、海外においてテスト販売を行う事業を(株)BSフジが番組を実施→弊社商品(ふりふる)が700品目を超えるエントリーの中から選ばれた52品目に残り、粉末味噌Miso powder“Furi Furu”を「有望商品」として選定されました。

取組のポイント

【認証取得】

海外では、実契約の場面では、消費者が求める有機JAS認証を取得した商品を持つことが必要だと認識した。弊社としても認証取得は、持続的な農業の確立と地域のラウンドマークに繋がると考え、若者世代に農業の可能性を伝承することで、有望な産業となる可能性を有しており、販売面の優位性を含め、将来の国内農業における担い手育成と存続のためぜひ必要な事だと考えた。

【商談】

「ふりふる」はベジタリアン、イスラムのハラール食、台湾の素食の人から肉食主義者の方々の料理にも合わせることができる調味料であるとの高い評価を頂き、ドイツ、豪州、米国のシェフ達から、他社が製造するみそと比べ、創作料理に採用できる素材であるとの評価を受けました。



有機大豆試作作業状況



有機大豆圃場



展示会出展ブース



管理者講習会

事業者の概要

代表者：八尋 健次

主な品目：有機米・米粉、米粉加工品

主な輸出先：アメリカ

認証取得状況：有機農産物

(令和5年10月取得) ※有機農産物・有機レストラン
各認証取得済

事業概要

オーガニックパパは、農福連携を活かし豊富な作業環境を提供する就労継続支援事業所（A型・B型）です。完全無農薬で生命力あふれる有機農産物を生産しています。一緒に働く人や距離感まで選べ、飽きることなく就労でき、「生きがい」を引き出せる環境が揃っています。

認証取得や輸出取り組んだ背景

「有機JAS」認証を取得することによって、現所在地のオーガニック給食用の有機原料・素材を学校に供給しており、地域からも高い費用化を得ている。特に国内の取引先からの要望が強い「有機米」に力を入れていきたいと考えている。加えて、欧米で注目されている「ローグルテン、グルテンフリー」の食材素材・原料として、有機米に取り組む事を進めていくことにした。

成果(実績)

・商談会で既に有機認証（加工食品）を取得し、海外にも一部実績のある小林生麺様と新商品の開発に取り組んでいます。小林生麺様は、認証を取得されているものの、有機原料の調達が困難であるため、香港などの取引先からも「オーガニックヌードル」の要望があるものの、商品の開発が進んでいないという事で、現在オーガニック・グルテンフリーの商品開発を進めている。

取組のポイント

【認証取得】

現在、オーガニックパパでは、3規格のJAS認証（有機農産物・有機加工食品・オーガニックレストラン）を取得しており、申請の書類作成認証取得申請においては、各規格の申請書類の作成、認証の技術的基準の要求事項を満たすため、圃場条件、生産資材、機械器具、包装資材、保管場所、識別管理、製造ラインの整備・原料規格などの内部規定・格付規定を整備し、JAS関連文章の保存管理などを、取得準備を含め、コンサルの方々に協力・指導・並走して頂き、運営指導を頂き、継続運営しています。

【商談】

海外向け新商品の開発（オーガニック・グルテンフリーヌードル）をすすめており、有機米粉の原料を利用したラーメン・パスタ・うどんの3品目の商品化に向けて、今年の春をめどに香港向けの商品化を目指しております。



グルテンフリー米粉ヌードル(現在有機品開発中)



オーガニックランチ



八尋代表と子供たち

事業者の概要

代表者：靱木 真一郎
主な品目：有機黒にんにく
主な輸出先：アメリカ
認証取得状況：有機加工食品
(令和4年10月取得) ※FSSC 22000 認証取得済

事業概要

弊社の黒にんにくは、「宮崎大学工学部と共同開発」した独自の熟成炉で約2週間かけてつくります。熱風や蒸気を循環させる事で、生のにんにくの辛味が消え、独特の甘みが出る事で、差別化商品として評価を頂いている。

認証取得や輸出取り組んだ背景

「有機JAS」認証を取得することによって、現在慣行品を販売している海外取引先からの強い要望（オーガニック認証取得）にも応えることができ、これからの時代、更なる取引額増の可能性があり、現行の慣行品取引先はJAS認証取得することにより、更なり取引増が見えてくると考え、取組を始めた。（特にアメリカは契約の見込みが立っている。）

成果(実績)

- GUZEN DEVELOPMENT
- Bloom Fine Foods
- Japna Gold USA

以上3社と他関連企業との契約が整った。

取組のポイント

【認証取得】

当初、認証取得申請においては、審査機関の選定、申請書類の作成、製造ラインの整備・原料規格など、わからない事ばかりでしたが、取得準備を含め詳しいコンサルの方々に協力・指導・並走して頂き、自社においても勉強しながら、知識習得ができ、期間内に認証取得することができた。認証取得後も書類の作成等指導頂いているので、継続審査も自信をもって臨むことができそうです。

【商談】

とにかく、可能性のある展示会に数多く出展・参加した。その中で、有意義な商談先を発見する事ができ、現在の契約に結び付いている。



(有機熟成黒にんにく原料を熟成炉に搬入)



(展示会出展ブース)

10. 事業者名 株式会社 おおすみテクノ 所在地 鹿児島県大崎町

事業者の概要

代表者：渡部 一二

主な品目：有機ローゼル

主な輸出先：香港・シンガポール・台湾

認証取得状況：有機農産物
(令和4年11月取得)

事業概要

弊社のポリシーである「安心・安全・健康的な食品」開発において、国内は勿論の事、特に近年飛躍的な伸びを見せている海外販売への展開を新規・重点事業と位置づけ、グループの独自技術である真空固液分離を利用した商品の有機JAS原料供給を行う。

認証取得や輸出取り組んだ背景

グループの三和コーポレーションが保有する独自技術「低温真空固液分離」を用いた商品開発が必要となる、「有機JAS原料」を生産・供給する事を大きな目標として掲げた。認証を取得することによって、更なる取引額増の可能性が広がり、より安心・安全な商品の提案ができる事がそういされ、取組みに着手した。

成果(実績)

有機JAS（有機農産物）の認証を取得することができ、有機JAS管理者資格を取得したスタッフを配置することができた。

また、固液分離により、商品開発の原料素材となる、有機ローゼル、ヒュウガトウキ、ミシマサイコ等の有用作物の栽培にも着手することができ、来年は有機レモンの認証取得の申請ため、準備を進めている。

取組のポイント

【認証取得】

認証取得においては、生産の技術もさることながら、法律に基づいた決め事など規定に基づいた管理者講習会で勉強もさせてもらい、「約束のある食品」として、栽培の行程における、約束事やその裏付けとなる根拠や資料などの収集を含め、有機JASの運営をするためには、様々な「約束事」がある事を勉強させてもらった。それは、農薬・化学肥料を使用しないだけでなく、生産に関わる資材、保管管理、輸送などを勉強することで、有機JAS認証事業者として、スタートラインにつくことができた。

【商談】

今年は、海外向けの展示会の出展（共同参加）で色々は商談ができた。また、GFPコミュニティを通じて、輸出商談の中で、指導・支援頂き、商談の橋渡しも支援して頂ける。とても有意義な仕組みなので、今後も是非利用していきたい。



有機ローゼル(萼)



(展示会出展ブース)



有機レモングラス(準備中)

11.事業者名 株式会社 オキス 所在地 鹿児島県鹿屋市

事業者の概要

代表者：岡本 孝志
主な品目：有機大麦若葉殺菌パウダー
主な輸出先：アメリカ・インド・シンガポール
認証取得状況：有機加工食品
(令和4年11月取得) ※FSSC22000 認証取得済

事業概要

地域資源を最大限に生かす商品開発を目指す。
16年間培ってきた地元農家との連携で大量、安定確保が可能。自社工場は、九州でも最大級の殺菌・粉碎工場を保有し、FSSC2200を取得しており、安心・安全の商品づくりに取り組む。

認証取得や輸出取り組んだ背景

「有機JAS」認証を取得することによって、顧客より有機の大麦若葉殺菌、粉碎工場の認証を取得してほしいとの強い依頼があり、今回有機JASの認証取得にチャレンジし、地元野菜の特性を生かした他社製品との差別化を図り、更なる安心・安全の裏付けとなる商品を製造し、既存の取引先(アメリカ・インド・シンガポール)の取引拡大を含め、新規取引先開拓・展開を目指す。

成果(実績)

・現在、出展会場で来場頂いた企業様と海外輸出向け商品開発を進めている。



取組のポイント

【認証取得】

認証取得申請においては、申請書類の作成、製造ラインの整備・原料・添加物の規格など、わからない事ばかりでしたが、取得準備を含め、コンサルの方々に並走して頂き、書類作成の手順など、指導に来て頂き、社内で学習の場を持ちながら、知識習得ができ、期間内に認証取得することができた。認証取得後も書類の作成等指導頂いているので、継続審査についても並走頂いている。

【商談】

展示会に出展し、来場頂いた企業様との新たな出会いを創出することができ、これがきっかけとなり、新商品の開発を進めております。



(展示会出展ブース)



粉体殺菌パウダー



有機JAS認証書

12. 事業者名 (株)三和コーポレーション 所在地 大阪府豊中市

事業者の概要

代表者：渡部 一二

主な品目：有機ローゼル

主な輸出先：香港・シンガポール・台湾

認証取得状況：有機加工食品
(令和4年12月取得)

事業概要

弊社のポリシーである「安心・安全・健康的な食品」開発において、国内は勿論の事、特に近年飛躍的な伸びを見せている海外販売への展開を新規・重点事業と位置づけ、独自技術である真空固液分離技術を利用した有機JAS商品開発を進めていく。

認証取得や輸出取り組んだ背景

加工食品の主要な技術である「乾燥加工」は、水分を除去する事により、保存する技術であり、優秀な技術だが、農畜産物の殆どは水分であり、加工段階で消失するこの「水分を回収し有効利用したい」等の思いで、試行錯誤の末、独自の乾燥加工（低温真空固液分離）技術を確立し、これらの技術を応用して「有機加工認証」を取得し、日本独自の技術を活かした有用な有機加工食品を海外の皆様に提案・普及させたいという思いに至った。

成果(実績)

自社分離技術は生乳（牛乳）など劣化しやすい原料も固液分離し、空気中の湿度に左右されず、極限まで水分を分離する事により、「常温保存」も可能となる。
特に、海外輸出における鮮度劣化・保存問題・賞味期限等の課題に対応できる技術を、有機JASの認証取得し、高付加価値商品の開発技術の確立することができた。

取組のポイント

【認証取得】

認証取得においては、加工の技術もさることながら、法律に基づいた決め事など規定に基づいた管理者講習会で勉強もさせてもらい、「約束のある食品」として、製造の行程における、約束事やその裏付けとなる根拠や資料などの収集を含め、有機JASの運営をするためには、様々な「約束事」がある事を勉強させてもらった。それは、原料が有機であることは勿論、生産に関わる資材、保管管理、輸送などを勉強することで、有機JAS認証事業者として、スタートラインにつくことができた。

【商談】

今年は、海外向けの展示会の出展（共同参加）で色々は商談ができた。また、GFPコミュニティを通じて、輸出商談の中で、指導・支援頂き、商談の橋渡しも支援して頂ける。とても有意義な仕組みなので、今後も是非利用していきたい。



(展示会出展ブース)



低温真空分離抽出法

低温真空分離抽出法とは、植物資源や食物資源を液体と固体に丸ごと分離させる製法です。水や溶剤を使用せず、低温(35℃~40度)で植物や食物の有効成分を抽出する効率の高い抽出法です。

独自技術(低温真空分離)



真空固液分離システム

13. 事業者名 株式会社のこたべ 所在地 北海道七飯町

事業者の概要

代表者：平島美紀江

主な品目：有機ハーブ麴、ポーロ

主な輸出先：シンガポール（2019年）

認証取得状況：有機JAS認証(加工)
（2023年）

事業概要

地域商社として、製造業をはじめ、地域の産品を加工、編集し、地域内外に販売しています。

認証取得や輸出取り組んだ背景

数年前に、ヴィーガン対応のno egg boloを商品開発しました。その時、輸出するには有機認証がある方が強みになると感じました。また、「hakko」が世界のシェフの間に定着しているという情報をキャッチし、有機の塩麴、しょうゆ麴の商品開発にチャレンジしました。

成果(実績)

函館市とジェットロ共催の商談会に参加させていただきました。補助期間中は、麴がまだ商品開発中につき、具体的な商談には至りませんでした。弊社の商品企画書について「麴の具体的な使い方を提示する」など改善ポイント、麴の世界的なニーズ、パッケージについての改善ポイントなど有益なアドバイスをたくさんいただきました。

取組のポイント

【認証取得】

認証に至るまでの書類作成、加工場の整備に時間がかかりました。試作段階での応募だったので、実際に製造し、その過程をしっかりと記録しておけばもっとスムーズにいったと思います。

【商談】

有機があることで、先方バイヤーからの信頼度が違います。日本ではまだ有機の割合が少ないですが、海外では必要。有機があると、商談がスムーズに進むことを実感しました。輸出を視野に入れるのであれば、有機認証は必要と感じました。



商談会の様子



商品

ASIAGAP

14. 事業者名 株式会社ドロップ 所在地 茨城県水戸市

事業者の概要

代表者：代表取締役 三浦綾佳
主な品目：フルーツトマト・トマトジュース
主な輸出先：台湾
認証取得状況：JGAP(2019年)
ASIAGAP(2022年)

事業概要

フルーツトマト専門農場であり、生産から商品開発、加工、販売までをワンストップ型で行う。トマトジュース工場では他農家のトマトの加工受託も行っている。

認証取得や輸出取り組んだ背景

これまでは国内でのお客様獲得に尽力してきました。インバウンドのお客様にも受け入れられるという感触を百貨店での試食販売などでつかんでいたところに、新型コロナウイルスの影響でインバウンド需要が低下。それでは現地に持って行けないかと輸出を検討しはじめました。

成果(実績)

少量ではありますが台湾へのトライアル輸出を行いました。商談はオンラインで行い、輸出に合わせてブランド名の台湾での国際特許も出願しました。現在は商品が足りず輸出拡大はこれからですが、これから現地でのファン作りに取り組みでいきたいと考えています。ASIAGAPの認証取得も、輸出拡大していくための準備として取り組めたので、良い「整理整頓」の機会になったと思います。

取組のポイント

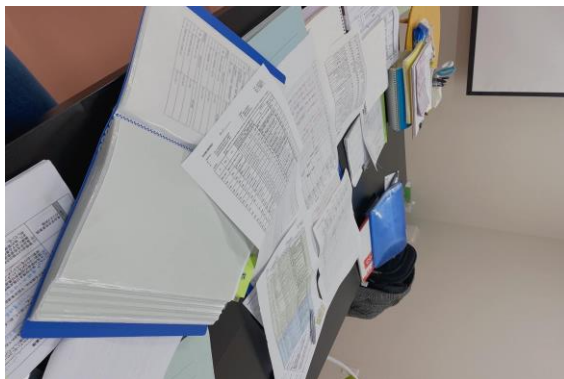
【認証取得】

言葉の理解と解釈の仕方に苦労しました。
JGAPと大きく違うのはこの部分だと個人的には感じています。

【輸出】

懸念点は「商品を真似されないか」という点でしたので、国際特許出願の手続きに時間をとられましたが、自分達のブランドはしっかり守りたいという気持ちで乗り切りました。

輸出では現地のお客様に対しての情報発信も大事だと学びました。(右写真)



ASIAGAPは書類量が多いですが、自社農場の点検と整理整頓だと思えば前向きに取り組めました。
(左写真)



15.事業者名 株式会社すずめファーム 所在地 京都府亀岡市

事業者の概要

代表者：上柿 良平
主な品目：くうしん菜
主な輸出先：EU、イギリス、米国
認証取得状況：有機JAS(2020年)
Asia-GAP(2023年)

事業概要

有機野菜の生産・販売
特にくうしん菜や黄金かぶを主力としており、EUや米国へ向けて地元の食品メーカーと協力し輸出に取り組んでいます。

認証取得や輸出取り組んだ背景

地元の食品メーカーより、海外の健康意識の高い方へ向けにお漬物を販売するための野菜の生産を担ったことが海外展開への第一歩でした。EUや米国の商社よりAsia-GAPの認証を求められたため、認証の取得を決断しました。

成果(実績)

展示会実績

2023年 10月 SIAL Paris (出展 KYOZUKEブース内)

輸出実績

米国 (ロサンゼルス、ハワイ)、フランス (パリ) 360kg (漬物 5000PC分)

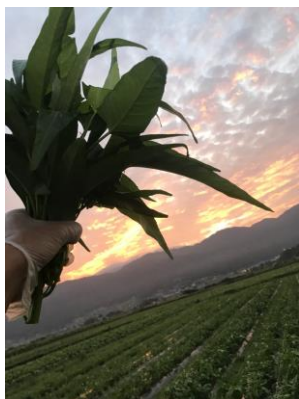
取組のポイント

【認証取得】

出来る限り使用するものや施設を簡素化し管理しやすい状況を作ることから始めました。書類の作成に非常に苦労しました。効率的に管理できるシステムがあると管理しやすいです。

【輸出】

EUでは健康意識の高い方や環境の負荷について気にされている方が多い印象でした。Asia-GAPや有機JAS認証について非常に好感を持っていただけました。



16. 事業者名 株式会社石橋果樹園 所在地 佐賀県佐賀市

事業者の概要

代表者：石橋 健一

主な品目：ミカン・桃・すもも

主な輸出先：香港・シンガポール
・ベトナム

認証取得状況：Asia-GAP(2022年)

事業概要

10haで果樹栽培を行っている。
全国でも珍しい「蔵入りみかん」を輸出しており、輸出先では“他県産のミカンよりも甘みが強い”と高評価。
今後は、より多くの国へ輸出をしていきたいと考えている

認証取得や輸出取り組んだ背景

国内のミカン需要が下がっていることに危機感を覚え、海外に目を向けると海外での需要が大きいことから輸出を目指すようになった。その際、他と比較してより付加価値のある農産物を輸出したいと思い、Asia-GAPの認証取得に至った。

成果(実績)

【2021年】シンガポール・香港 0.5t



【2022年】シンガポール・香港・ベトナム 3t 特にベトナムでは味が良いと高評価
来年はアメリカへの輸出も視野に入れる

取組のポイント

【認証取得】第三者目線からの指摘による意識改革

以前はミカンの隣にフォークリフト用のガソリンを置いてしまう等、農産物＝食品であるという感覚が薄かったが、認証取得により生産物に対する意識の変化が非常に大きかった。また、危険箇所の管理等あいまいだった部分の指摘を受け改善していくのが大変だったが、結果的には安全の向上につながり逆に気づくことができてよかった

【輸出】国内出荷とは異なる長期間の品質保持への対応

国内の輸出業者とつながり現地の販売先の開拓していった。また、輸出に向け検疫等クリアしないといけない壁が多数あるのは大変だった。また輸送方法も国内で要する日数とは違うため、しっかり計画立てて輸出対応する必要あった。





GLOBALG.A.P.

17. 事業者名 京葱SAMURAI(株) 所在地 京都府久世郡久御山町

事業者の概要

代表者：代表取締役 村田翔一
主な品目：九条ねぎ,黒枝豆,菜花など
主な輸出先：未定
認証取得状況：2022年8月
GGN:4063651178647青ネギ



事業概要

京葱SAMURAIはチーム総面積35haを超え年間1,000トン京都最大級規模を誇る九条ねぎ生産プロチームです。個々に農業法人の代表を務めるメンバーが、同じ志を持って各々の強みを活かし、周年安定供給しています。

認証取得や輸出取り組んだ背景

安定した品質向上を目指し、国内だけでなく海外にも進出するに当たり、認証を取得。

成果(実績)

■沖縄大交易会へ出展

商談実績：三井物産株式会社那覇支店
MoguShop Pte Ltd
株式会社ショーライ
株式会社LEGATO など

■シンガポール高島屋への輸出実績有



取組のポイント

【認証取得】2022年8月 GGAP取得

弊社は3社の農家からなる会社のため、GGAP取得の際に3社とも基準をクリアする必要があった。

3社とも同じ世界基準に揃えることにより改めて安全管理の重要性を周知することができ、また、各自講習を受けることにより各個人の意識が上がったため、仕事に対するモチベーションが向上。

より良い品質の商品を安定した品質で供給することが可能となりました。

【輸出】

生鮮品を出荷する為、事前の予冷が必要なことや、特殊なパッケージの使用、梱包方法など

国内輸送と違う為、新たな知見を得ることができた。



事業者の概要

代表者：平野 孝憲
主な品目：レンコン
主な輸出先：マレーシア
認証取得状況：GLOBALGAP (2023年)

事業概要

地元の後継者不足と農地の担い手不足解消のため、持続できる農業の実現を目指す

認証取得や輸出取り組んだ背景

GLOBALGAPについてはメインの販売先からの要望がきっかけですが、国内外への販路拡大の武器になればと取り組みました、また成田空港が地元なのでグローバルな取り組みが身近に出来る環境があるので取得を決意。

成果(実績)

業者を通しマレーシアへ輸出は一件一年目なので、まだまだこれからです。取得をきっかけにもっと輸出にかかわる業者を開拓しなければならないと思います。

取組のポイント

【認証取得】

二年前からGAPに準ずる管理方法をしていたので取得自体はすんなりいきましたが、GLOBALGAPは単語や言葉の理解から...苦勞しました。

【輸出】

GLOBALGAP認証農場アピール方法と、作物的にアジア以外での販路拡大が課題。

